

人生二度なし

丹波市長(兵庫県) 辻 重五郎

Jyugorou Tsuji



座右の銘

私は「人生二度なし」を座右の銘としています。この言葉は私が、兵庫県教育委員会で勤務しておりました時、当時の県教育長の井野辰男先生に随行して訪問した神戸大名誉教授で教育哲学者の「森信三先生」に直接ご指導いただいた真言でした。

まさに人生は一度しかなく、人生の最大かつ永遠の課題である「如何に生きるべきか」のテーマを突き付けられました。その後96歳でご逝去されるまで、何度か直接ご指導いただく機会があり、私自身の50歳以降の人生にも大きな影響を受けたようであります。

一般社団法人実践人の家創立40周年の記念誌にも「森信三先生に寄せて」と題して、その思いを掲載いただいているところでもあります。

平成16年11月に旧6町が合併し、初代市



座右の銘 人生二度なし

長として立候補する際にも、随分と迷いがあり「何をするために自分は市長になるのか」の自問自答を繰り返す時「人生二度なし」の心理の中に答えを見出したように思っています。旧6町の50年に渡る歴史、風俗、習慣、旧町政の特性等々、大きな違いがあり、市役所職員も865名をかかえての出発で106億円の負債もあり、500km²の面積、旧6町の役場を中心とした諸施設がすべて6通りといった新市、丹波市の厳しい誕生でした。

新市の一体感の醸成を第一に考え「心の合併室」を新設し、「心豊かな人づくり」を柱に取り組むことといたしました。丹波市誕生から11年が過ぎましたがいまだに「人生二度なし」の言葉を大切に毎日を真剣に生きているところです。

健康管理

平成16年12月6日初登庁と同時に連続する諸行事に追われる中、ちょうど選挙前に台風23号の襲来で大雨洪水に見舞われ3名の尊い命をなくし、山林・田畑に大被害を受けました。災害復旧のため、600m級の山々を国や県の農林関係者を案内して駆け巡りましたら顔色が悪くなり、息苦しさを強く感じ、出会う市民の皆さんから



「健康寿命日本一宣言」の除幕式を行う筆者(左から3人目)(平成18年4月3日)

「顔色が悪いが大丈夫ですか」と声を掛けられる毎日でした。早速病院へ検査入院をいたし「心不全」の心配があるので手術の必要があると診断されましたが、当分の間は市長職を離れるわけにはいかず仕事を続行いたしました。平成17年6月28日に議会終了後入院をして弁膜症の手術をし、2カ月の入院で全治し9月の定例会には出席できました。永年の県庁勤務の不摂生が原因であったので、飲酒、喫煙をやめ健康管理第一にしましたので、手術後10年風邪一つひいたことなく、元気な毎日を送っています。病氣

後の生活は、激務な市長職ですが、この気力と程よい緊張感と多忙な毎日が私の生活を規則正しくしているようです。

祝休日も余暇はなかなかとれませんが、このことが私の健康管理になっていると自負しています。

もう年齢も後期高齢者になり喜寿を迎える年となりました。自家製野菜（キャベツ、玉ねぎのスライス等）を毎日食し、肉類を最小限に摂取するといった食生活に気を配っています。もう一点はストレスを溜めないため、適度な軽運動（歩く）や



神戸まつりで丹波市をPRする筆者（平成26年5月18日）

多くの人と話をすることに努めています。今では多くの市民の方が健康相談におみえになります。

多趣味

「市長の趣味は何ですか」とよく聞かれますが、これといった優れた技術・特技を持つていない訳でもなく、趣味といえる程熱中して常時楽しんでる事柄もありません。何をやっても中途半端なものばかりで、これを多趣味と名付けていますが、趣味の欄には「小旅行」などと記します。

将棋・囲碁も3級程度、ゴルフもスコア100が切れるかどうか。書道・絵画も人並み、舞踊も丹波市音頭は浴衣を揃えているぐらいです。

あるとき、久しぶりに休日がとれましたので兵庫県内の宿場町の風情が残る町に小旅行しました折、その土地のおじいさんから「人は八行人生、すなわちハは半分、ヒは人並み、フは普通、へは平凡、ホは程々に」と教えてもらったことを思い出します。これは私の人生を語ってくれたようでした。人生無限は禁物、無理をすると必ず歪みが起ころうでしょう。私の場合人は並みで良いとしています。これは負け惜しみかもしれません。

しかし、市長職はストレスの多い仕事だと思えます。そんな中、将来に夢を描いて、

全力投球で頑張れることは一度しかない人生を有意義なものにする職だと考えています。また、社会のために役立ちたいと多くの人たちが思っておられる中、市長職こそ最高の市民の先頭に立つことができる立場と考えております。だからこそ社会に役立つ自覚をもって頑張っていく所存です。

そしていつか、退職するときにやってまいります。そのときは是非、家の周りの田畑で作物をつくり、自然を相手に「土に生きる」人生を歩みたいものです。これが私の最終の趣味ではないでしょうか。



丹波市のゆるキャラ「丹波竜のちーたん」と共に